

みんなの本箱町中に（どこでも図書館プロジェクト）

1 活動の概要

葉山町を拠点に活動している「うみやまのこどもとしゃかん」が、子どもたちの身近にあっていつでも本が借りられる「みんなの本箱」を設置。葉山町内には、郵便ポストのような小さな本箱が設置され、借りた本はどの本箱に返すこともできる。貸し出しカードは無く、返却期限もなければ貸し出し冊数の上限もない。借りるための手続きもないので、気軽に手に取りやすい。

自分の読み終わった本を入れることで、本を寄贈することもできる。本がなくなってしまうことも懸念されたが、本箱に入りきらないこともあるぐらい、本の冊数は少しずつ増えてきている。

2 活動の状況、実際

クラウドファンディングにより資金を集め、私有地に設置してもいいというオーナーには、本箱と本を提供し現在約 30 か所に「みんなの本箱」を設置することができた。

本箱の作成は、一般社団法人葉山の森保全センター（HFC）が担当し、葉山の森の間伐材を使用している。本の管理は、本箱を設置してくださる方（オーナー）にお任せしている。オーナー同士は、多くなってしまった本の移動や本箱の管理についての相談など、常に連絡を取り合える体制があり、楽しみながら取り組んでいる。

「みんなの本箱」の設置場所は、商店の前や民家の軒先などにあり、各種の SNS を利用し、MAP を公開し、周知を図っている。

図書館や学校の図書室と違い、「みんなの本箱」に入る本の数は限られている。だからこそ、自分の気になる本に目が留まりやすい。設置されている場所によっては、歴史物が多くなったり、児童書が多くなったり、本箱それぞれに自然と個性が出てきている。

本を通したコミュニケーションも生まれてきている。



3 参加者、指導者等の声

【本箱オーナーから】

- ・ 地域の中で本が動いていく様子が感じられて楽しいです。
- ・ 蔵書が多いのでたまにセレクトして本箱に入れたり、おすすめ本の紹介チラシを作って貼ったりしています。
- ・ 通りすがりの子供たちだけでなく、散歩中の大人も聞いてくださっているのをよく見ます。

【利用者から】

- ・ 本箱の前を通るとき、行きと帰りに立ち寄って本を選ぶのが楽しい
- ・ 見たことない本が入っていることがあるので、開いて見るのが楽しみ
- ・ 小さいころ読んでいた本を入れていて、それがなくなっていると小さい子が読んでくれているのかなと思って嬉しい。